

主催 一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会 (JM00C)
2020 (令和2) 6月20日 オンライン授業に関するJM00Cワークショップ

13:40-13:55

「オンライン授業の実践から見えてきたこと(1)」 COVID-19対応下での対面回避とオンライン講義の導入

見上 一幸

(尚絅学院大学・特任教授、日本ESD学会・理事、宮城教育大学・前学長)

宮城県内の大学の概況

- 新型コロナウイルスの影響で、各大学はオンラインによる遠隔授業を導入
 - 政府による緊急事態宣言の全面解除後もオンライン実施の継続
- 教室における3密を避ける感染対策の難しさ →対面授業に慎重
- 第2波、第3波に対応するために、今後常にオンラインへの切り替え体制の維持は必要
- 尚絅学院大学では、
 - 【収録動画配信型（オンデマンド型）】
 - 【同時双方向型】

- パワーポイントの原稿を事前に、大学の教務管理システム（学生ポータルサイトCampus-J）で配布
- 20枚程度のPPT原稿は、できるだけ文字を少なく、画像や写真を使用
- 前回の授業後の“ミニッツペーパー”から、質問や疑問を30分程度、説明する。→学生たちの疑問を解説、他の学生と共有
 - 学生からの気づきなどを取り上げ、個々の学生の興味の深化を図る。
- 次に1時間程度で、本日の課題、テーマの視点や要点を講義する。
- 講義の中で：個々の学生が、フィールド等での実体験を指示。
- 講義の中で：課題を出し、それをブレイクアウト・ルーム（4～5名）で、自分の体験や意見について互いに交換する時間を設ける。
- 授業終了後、数日以内に、“ミニッツペーパー”を提出させる。

液晶画面との睨めっこは疲れる！

- 教員も、受講生も画面に集中し、目が疲れる。
- それでできるだけ約30分に1回程度、5分程度のブレイク・タイムを入れるようにした。
 - ➡ 質問のある学生は、この間にチャットで教員と話す

ブレイクアウトルームの活用

- 講義 1 コマに 1 回程度（約 15 分～20 分）のグループ別ディスカッション（1 グループ 4～5 人）の時間を持つ。
- グループ・ディスカッションには、ZOOMのブレイクアウト機能を用いる。
- グループで意見交換の進行は、受講生に任せる。
- ディスカッションの結果は、各自がまとめてミニッツペーパーにまとめる。

【特徴】全体の授業とは違う雰囲気、リラックスしてディスカッションできる。全体では顔を出さない学生も、グループ内では顔を出して議論に加わっている。ただ、内気で話せない学生もわずかにいる。

クラスの学生間コミュニケーションの不足を補うのに役立つ。

その他の留意点

- 全体講義では、顔を出さない学生がいても無理強いしない。
(グループ・ディスカッションでは顔を出している)
- 授業終了時、5分間はZOOMを閉じない。退席出ずに残っている学生に声がけする：授業についての相談ごとがあったりする。毎回、数人の学生から質問がある。
- チャット機能とは別に、実際の声でのやりとりは、学生と教員の距離を縮めるのに効果があるかも知れないと感じる。

学生のオンライン講義に対する評価

- 大学内で【収録動画配信型】と【同時双方向型】の割合がどの程度かわからないが、3/4の学生が、【同時双方向型】の授業を多く受講している。
- オンライン授業の満足度は？
 - 20/47 の学生が、どちらかというに対面授業が良い、
 - 20/47 の学生は、オンラインが良いという結果
- オンライン授業は対面型授業よりも面白いか？
 - 17/43 がそう思う。
- オンライン授業は対面型授業よりも大変か？
 - 32/43 がそう思う・少しそう思う

学生評価：オンライン講義で困る点

- ネット環境だったり、印刷だったり、課題レポートなどが対面授業の時よりも多く、少し大変だ。
- オンライン授業になったと同時に課題が増えたり、画面を見続けることによる体調不良が生じたり、外に出ないのに、より慌ただしい生活になった。
- 家のWi-Fiの調子が悪い時だと、音声が届かなくなったり、止まったりする。
- 資料を印刷しないといけないのでインク代だったりコピーに、金がかかる。
- 早く実際に学校に行って、みんなと意見交換し合いながら授業を受けたい。（新入生）

双方向への抵抗感

- 実家に帰ったりすると一人になれる場所が限られるためカメラをつけられないこともあるので、カメラオフでいいなと思っている。
- 他のオンライン授業で学生に質問したりする先生がいるが、私の場合、家だと自分の声だけではなく犬の鳴き声や、隣が小学校なので小学生の声も入ってしまうので、音声オンにして話したりするには抵抗感があります。
- チャットを使っただけの双方型なら抵抗はないです。

オンライン講義で良い点

- 【オンデマンド型】は、体調不良や用事があっても好きな時間に視聴することができるのでいいと思う。
- 講義によっては、対面の1回だけでは理解できないものもあり、【オンデマンド型】のオンライン授業の方が理解しやすいものもある。
- 通学時間が省かれたりして自分のしたいことができ、課題を集中してゆっくり取り組むことが可能である。
- 体調がすぐれない時にも授業を聞くことができる。
- バイトができない状態なので学校まで行く交通費がかからなくて済む。
- オンライン授業のほうが集中できると感じた部分もある。
- 多少の困難はあるが、だいぶ慣れてきた為、非対面ながらも楽しめている。
- 先生と同じ資料を、画面共有しているのでわかりやすい。

オンライン講義でできること、できないこと

- 実験や実物への直接コンタクト：五感による体験
- 自然観察は、自分の家の周りで一人で実施可能
- オンラインでの学生の出席率は高い。
- 理系では実験は、オンラインでは難しい。
 - ➡ 夏季休暇中などに、登校させ、低密で対面で実施の予定

オンライン講義への期待

- 教員と受講生の1対1の関係は、通常の講義より深められるかも知れないという印象。
- それだけに、いわゆるアクティブラーニング的な指導をしやすのではないかとも思う。